

知財人財育成研究分科会セッション

◆ 知財人財育成 10 年を省察し、10 年を見通す ～グローバル時代の知財マネジメント人財を考える～ ◆

政府の知財人材育成総合戦略ができたのが、2006年1月でした。その時、推進期間として掲げられたのが以下の期間です。

第1期:2005～07年度

第2期:2008～11年度

第3期:2012～14年度

すなわち、今年度が最終年度なのです！

もちろん、環境の変容に伴い、2012年1月には、修正版ともいえる「知財人材育成プラン」が出されました。また、政府の施策と共に、民間企業での現場における人材育成も活発に行われてきました。

しかしながら、知財環境の激変は加速度的です。求められる人材像もかなり変容と多様化をしてきています。

そこで、当分科会では、この最終年度の時期をとらまえて、最近10年の知財人材育成をレビューすると共に、今後10年に関する 이슈（論点）は何か、当分科会の幹事団と会場の皆さんとで議論することとしました。

1：全体レビューと問題提起「知財人財育成の考え方の変容と多様化」

妹尾堅一郎（知財学会理事、当分科会主査）

2：幹事によるパネルディスカッション（五十音順、敬称略）

久保行幸（中小企業診断士）

寺内伊久郎（北海道大学 産学連携本部 特任教授、弁理士）

遠山 勉（弁理士・知財ソリューション代表取締役）

吉原拓也（日本電気株式会社 知的財産本部シニアマネージャー、工学博士）

妹尾堅一郎（モデレータ NPO 法人産学連携推進機構理事長、一橋大学客員教授）

3：会場との質疑、議論

★総合司会進行 中村正之（DNP テクノリサーチエキスパート（本分科会幹事長））

知財人財育成研究分科会セッション

◆ 知財人財育成 10 年を省察し、10 年を見通す ～グローバル時代の知財マネジメント人財を考える～ ◆

寺内 伊久郎 (てらうち いくお)

国立大学法人北海道大学 産学連携本部 特任教授。

早稲田大学理工学部電気工学科を卒業後、松下電器産業株式会社 (現パナソニック株式会社) に技術者として入社。放送業務用のオーディオ機器・映像機器の開発に従事後、本社知的財産部門に異動し、全社知財権利化・グローバル知財戦略立案・国内外特許事務所との渉外・社内外研修講師等の業務に携わる。2014 年 3 月から現職。弁理士 (特定侵害訴訟代理業務付記弁理士)、1 級知的財産管理技能士 (特許専門業務)。

遠山 勉 (とおやま つとむ)

秀和特許事務所特別顧問、(株)知財ソリューション代表、(株)キングジム社外監査役、成蹊大学法学部非常勤講師、弁理士。

中央大学法学部法律学科卒。東京理科大学工学部第 2 部電気工学科卒。自動車部品メーカー・特許事務所を経て佐藤・遠山特許事務所 (秀英国際特許事務所) を設立、合併で秀和特許事務所共同設立。特定侵害訴訟代理登録、著書に『欧州・米国・日本 国際特許共通明細書の書き方』(共著/イカロス出版) 1996 年、『ロボットのいる暮らし』ロボ LDK 実行委員会 (B&T ブックス) (共著/日刊工業新聞社) など。

吉原拓也 (よしはら たくや)

日本電気株式会社知的財産本部シニアマネージャー。

北海道大学工学研究科原子工学専攻を卒業後、日本電気株式会社に入社、基礎研究所にて半導体材料の研究に携わる。現在は知的財産の調査分析、戦略立案に従事。日本知的財産協会総合企画委員会委員長代理、日本知財学会知財人財育成研究分科会幹事。工学博士。

妹尾堅一郎 (せのお けんいちろう)

NPO 法人産学連携推進機構理事長。一橋大学商学研究科 MBA 客員教授。

慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フイルム株式会社勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。産業能率大学助教授、慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授等を歴任して現職。現在も東京大学、九州大学等で大学院生等を指導。CIEC (コンピュータ利用教育学会) 前会長。日本知財学会理事。研究・技術計画学会副会長。内閣知的財産戦略本部専門調査会前会長、農水省技術会議議員ほか、多くの省庁委員や大手企業役員を兼務。ビジネスモデルと知財マネジメントに関する研究と教育を続ける。また、実践面では、秋葉原の再開発プロデュース等で著名。

著訳書多数。中でもベストセラーになった『技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか』は題名が流行語にもなった。

平成 20 年度 産業財産権制度関係功労者表彰 経済産業大臣表彰

文責：学会理事、本分科会主査・妹尾堅一郎